

3.8国際女性デーシンポジウム開催

女性の地位向上や女性が働きやすい職場づくりへつなげるための「3.8国際女性デーシンポジウム」を3月8日に群馬県社会福祉総合センターで開催し、産別・地協から107名が参加しました。

連合本部男女平等局の鈴木り次長を講師に迎え、女性の尊厳と人権を守るため、男女雇用機会均等法を職場内へ周知徹底し、点検することの必要性について講演をいただきました。



男女平等社会の実現に向け
連合本部鈴木次長

本年は、「3.8国際女性デー」の取り組みとして初めてとなるパネルディスカッションを企画し、コーディネータに連合群馬の政策アドバイザーであるフリーアナウンサーの新木睦子氏を、パネリストに男女平等担当の吉田副会長、女性委員会の齋藤委員長（J P 労組）、信越化学労組の小川委員長（化学総連）、議員懇談会の小川あきら県議を迎え、「女性が働きやすい環境づくりをするためには」「ハラスメントの無い職場作りをするには」などについて、それぞれの立場からお話しいただき、最後にアピール（案）が確認されました。

シンポジウム終了後に、前橋駅前ならびに市街地において、国際女性デーのシンボルマークが「パ

ンとバラ」であることからバラグッズ入りティッシュを配布し、県民へのPRを女性委員会のメンバーが行いました。



各組織を代表し意見を出すパネリストの皆様

【3.8国際女性デーとは】

1857年にニューヨークで起きた工場火災で、多くの女性たちが亡くなったことを受け、3月8日に低賃金・長時間労働に抗議する集会が開かれたことが起源です。



前橋駅前でのPR行動

その後、国連においてこの日は、「女性の権利と平等のために闘う記念日」と位置づけられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳、人権の確保を表す「バラ」をシンボルに、今も世界各国で様々な行動が展開されています。

ぐんま労福協 第2回勤労者福祉セミナーに参加

1月25日、勤労福祉センターにおいて、ぐんま労福協主催による第2回勤労者福祉セミナーが開催され、75名が参加しました。

第1部では、南三陸町社会福祉協議会事務局長で同町ボランティアセンター長の猪又隆弘氏より、「負けてたまるか!! 震災との戦い」と題した講演が行われ、



震災当時を語る、猪又事務局長

東日本大震災により全てを失った南三陸町の被害状況や、ボランティアセンターの立ち上げから現在に至るまでの主な出来事や課題の検証がなされました。

また、南三陸町における課題を紹介し、震災から2年以上が経過した被災地の現状について語り、被災地ではまだまだ支援の手を必要としている実情が語られました。

第2部では、ぐんま労福協が開催したボランティアへの参加者を代表して、高草木副事務局長（連合群馬）、あべともよ県議から活動報告と感想が述べられました。

「駅伝における人材育成と チームマネジメント」

3月15日、上武大学駅伝部監督の花田勝彦氏を招き、アニバーサリーコートラシーネにおいて、ぐんま労福協主催による第3回勤労者福祉セミナーが開催され、90名が参加しました。

講演では、長距離陸上選手として高校から大学、企業に入社してから引退、そして、上武大学駅伝部の監督に就任するまでの経緯や、箱根駅伝に出場するまでの選手育成、チーム作りについて話されました。

また、競技力のほか、人間力をつけるために、合宿では必ず読書をし、知識の向上に努めたことや、それぞれの分野で選手をサポートできる組織づくりに入力してきたことなどが話されました。「組織が何かをしてくれるのではなく、自分たちが組織の為に何ができるかが大切で



選手の育成について語る花田監督あり、皆がそう思って行動すれば組織は変わる」との思いが述べられた他、講演後には「選手のやる気を引き出す工夫について」など、参加者との質疑を交わしました。